

現代型・都市型結核の克服に向けて

【目標3】

5つの戦略を着実に実施することにより、2010年(平成22年)における人口10万人当たりの結核罹患率を、2003年(平成15年)の32.6から、27以下へと引き下げることが目標とします。

我が国では、過去半世紀にわたり、結核克服に向けた国民的取組を進め、目覚ましい成果をあげてきました。

しかし、その後も結核を根絶するには至らず、21世紀初頭の現在、現代型・都市型結核として新たな形で結核は発現しています。

今後、さらに結核克服に向けた取組を進めていくためには、結核に対する正確な知識を普及させること、住民、国、都、区市町村、医療機関等の関係者が、それぞれの役割を認識し、責務を果たすことが改めて求められます。

都は、広域自治体として、区市町村の活動をコーディネートするとともに、国に対する提案要求活動や近隣自治体・全国の大都市との連絡調整など連携体制の構築・発展を進めながら、この計画に即して、現代型・都市型結核の克服に向けた対策に取り組んでいきます。